



2007年2月25日発行 通巻第89号
発行 佐賀県 西松浦郡 有田町 黒牟田 しん窯青花
電話 0955-43-2215 FAX 0955-43-2889
URL <http://shingama.com/shingama.html>
E-Mail Address sei ka@po.saganet.ne.jp
発行責任者 梶原茂弘

第八拾九号

大型ひな人形5段飾りお披露目

構想から制作まで2年がかりで完成させた大型ひな人形5段飾りが、有田皿山通り中心街にある有田館に飾られています。しん窯自慢の4人の伝統工芸士を筆頭に、職人さんこぞってこの大型人形づくりに取り組みました。

2月4日(日)オープン初日は700人も入場者があり、久々に有田皿山通りも賑わいました。2月1日(木)にテレビの生中継でしん窯が紹介され、中心として活躍した上絵付伝統工芸士の角や技術センターの秋永さん達のコメントがあり、良い情報発信ができました。来月11日(日)までのロングランですので、これから先口コミで来訪者が増える事を願っています。来年度7段飾りのフルセットができ、ギネスブック認定の冠をかかげて誇らしげに座っている有田磁器人形が日本各地から、いや世界中のお客様の耳目を集めている姿を想像するだけでワクワクしてきます。

佐賀城と有田焼

「城を巡る」というテーマで、BSハイビジョン撮影のため有田を訪ねて下さいました。日本中のお城の中で佐賀城も取り上げていただいたようです。さて、現在の佐賀城跡は天守閣の石垣しか残っていません。本丸歴史資料館として一部復元されていますが、私達が知っているお城のイメージとかけ離れています。そこで、佐賀藩が最も輝いていた藩祖鍋島直茂公や明治の群像のひとりである10代藩主直正公に焦点を当てて物語を映して下さいました。偶然に藩祖から10代までやきもの、とりわけ有田焼と密接不可分な関わりがあって、有田焼物語と言っても過言ではありません。藩祖が朝鮮陶工李参平公と出会い、有田が日本初磁器発祥の地となり、時は流れ、10代の頃は250年の歴史を刻みながら世界万国博覧会で工芸の極致まで進化しました。「世界の有田」と言われる所以です。時の権力者の手厚い保護のもとにやきものは伝統工芸産品として昇華してきました。お城とやきものの因果関係が徐々に明らかになってきました。2016年には有田焼生誕400周年を迎えますが、これから10年をどのように発展させていくか、業界人はもとより町民に課せられた大きな責務です。

橋口博之作陶展 間近

3月13日(火)～19日(月) 日本橋三越本店 本館5階J.Sピリッツにて

「雅(みやび)」をテーマに、第5回作陶展を開きます。毎回売上目標額のハードルは高くなりますが、挑戦する事に意欲的な橋口は、1日24時間をめいっぱい使って黙々と筆を走らせています。私達夫婦もこの時期を楽しみにして気を充実させています。三人四脚で会場にて素敵なお客様との出会いを楽しみにお待ちしております。

桜の花を見て楽しむ季節。
時代を超えて引き継がれてきた
日本独自の文化です。
今回は優雅な宴をイメージして
『酒器』に挑みました。
この世を楽しむ雅の世界を
ご覧ください。



職人さんのひとりごと - 取締役専務

～第5回・橋口博之さん～

しん窯にお世話になって24年目です。ほんとにアツという間に時間が過ぎていくような感じです。昨年青花ブランド誕生30周年を迎えましたが、そうした節目に自分の存在があることはとても嬉しいものです。

ところで皆さん、ネットショップ内の店長日記をご覧くださいなんでしょうか。昨年9月から出来るだけ続けていますが、これを始めて何か学び取らねばと、常にデジカメを持参して出歩くようになりました。

さて、いよいよ日本橋三越本店にて作陶展(3月13日(火)～19日(月))が開催されます。2001年から東京、青森、地元とお世話になってきましたが、今度で作陶展10回目となります。これもご支援いただくお客様をはじめ、当主夫妻ならびにスタッフ全員のおかげであります。本当に心より感謝しています。今や会社にとっても自分にとっても一大イベントとなりました。微力ながら有田焼を代表する染付の健在ぶりを、より多くの方々に宣伝していきたいと思っています。会期中は当主夫妻と私の三人で、お客様のご来場をお待ち申し上げていますので、是非お友達をお誘い合わせの上、お越し下さいませ。

